

令和6年度第2回月形町学校運営協議会議顛末

1 開 会

【上葛事務局長】

- ・ 定刻となりましたので、これより「令和6年度第2回月形町学校運営協議会」を開催いたします。

開催にあたりまして、高島会長よりご挨拶申し上げます。

2 会長挨拶

【高島会長】

- ・ みなさんお疲れ様です。お忙しい中、また、お仕事終わりのところお集まりいただきありがとうございます。
- ・ 日暮れも早くなってきて、今日までの交通安全週間だったと思いますけれど、子どもたちの見守り等も含めて、先生方、地域の方々には本当にお世話になっているといつも見ています。今後ご協力いただけるようよろしくお願いいたします。
- ・ 本日の協議事項ですけれども、小中学校の中間評価についてです。部会協議も行いたいところではありましたが、開催時刻が遅い設定とせざるを得なかったため、全体での協議とさせていただきました。
- ・ では、はじめさせていただきたいと思います。

3 協議事項

【上葛事務局長】

- ・ 以降の進行は高島会長にお願いします。

(1) 令和6年度月形小学校の中間評価について

【高島会長】

- ・ それでは、3協議事項に入ります。

(1) 令和6年度月形小学校の中間評価について、島委員説明願います。

【島委員】

- ・ 皆さんこんにちは、月形小学校島でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- ・ 4月からスタートして、9月、今日でぴったり半年を過ぎたところでございます。本日小学生には「あゆみ」を配ったところです。前期の子どもたちの動きだとか、また、後期、島はどんなことを考えているのか、そのようなことをお伝えできればと思っています。
- ・ 本当に概略ですので、細かなことはクリップ止めで各種資料を5種類用意させていただきました。そこには特段今日触れませんので、パワーポイントの資料により説明をさせていただきたいと思います。
- ・ 「夢」の実現に向けて学校はどんなことができるんだろう、何をすべきなのかということを考えながらこの半年を過ごしてきたところです。
- ・ 先日、道徳教育推進事業で河合竜二さんが来てくれて、子どもたちに直接講話をしてくれる場面がありました。その中のフレーズに「微差を大差に変える」ちょっとした積み重ねが大きな差になっていくということを子どもたちに直接話しかけてくれたところです。そう考えると昔から言われている「継続は力なり」という言葉に繋がっていかとを考えています。そういったところに重きを置きながら、後半進めていきたいと考えているところです。
- ・ 子どもたちの成長のために私たち教職員は、学校は何ができるのか、何をすべきなのか、どんな教育活動を展開したらいいのか、令和9年度の義務教育学校の開校を視野に入れながら展開していこうと進めています。
- ・ 本校の重点でございます。「自ら学び合い 笑顔あふれる月小の子」こういった取組をどのように進めていくのか、年度当初お話をさせていただいたところです。
- ・ では、各種の教育活動、具体的にはどんなものがあつたのか。この場面は以前お見せしています防犯教室の際に警察の小田嶋所長さんに来ていただいて子どもたちに直接語りかけてくれている。こういった生の声が子どもたちにやはり良いと考えています。
- ・ 5年生です。JA青年部の皆様の協力をいただきながら稲刈り体験をさせていただいたところです。子どもたちの満面の笑みを見ていただければ本当に充実した取組だ

と考えています。

- ・ 先週、地域参観日があり、主にいらっしゃった方々は保護者ばかりですが、各学年が子どもたちの自分の目標に向けて発表会をするという流れで取り組んでいるところです。本当に真剣な姿で取り組んでいる様子がわかるかと考えているところです。
- ・ 3年生の体育の授業です。いわゆるダンス、リズムの授業です。ここに専門家をお呼びしました。中学校の今先生です。ご存じの方が沢山いると思いますが、先生に3年生の授業を1時間まるまるお願いし、それを2日間やりました。専門家の動きですから子どもたちもやはり引きつけられる。本当に本物に触れるって大切だなということを実感したところです。
- ・ また、人権教室ということで人権擁護委員の方々に来ていただいて4年生に直接語りかけていただいて、右側の画面に映った方は見た方がいらっしゃると思うんですが、月形町の人権関係の方にも来ていただいて授業を展開したところでございます。
- ・ 先ほど伝えました道徳教育推進授業、これは道教委の事業なんですが、講師派遣する授業がありまして、元サッカー選手の河合竜二さんに来ていただいて直接子どもたちに語りかけていただいた場面です。
- ・ ここで、お手元にあります1枚もの「学校経営概要報告」をご覧ください。

1. 各種教育活動の(1) 学校行事 ①運動会は、晴天の下実施させていただきました。令和7年度については5月31日がいいのか、6月7日がいいのか、職員の中でも模索しているところですが、もし、取り立ててのご意見がありましたら、教頭にお申し出下さい。また、②修学旅行、③宿泊学習、④見学旅行、⑤遠足ということで、子どもたちは各地に行き、学びを深めてきたところです。
- ・ (2) 地域の教育資源の活用というところで、私が思いつくままこの半年どんなことをやったか、それから今予定されているものを書き出してみました。これでは足りないものもあるのではと思いますが、私が把握できるものをするしたところです。企業の力を借りたり、地域の皆さんの力を借りたりしながら子どもたちの学びを進めているところです。下から4行目、○生活科：街探検2年生においては、お肉屋さん、トマト農家、町の施設に足を運んで、子どもたちが学習する場面というところを大切

にしながら進めているところです。

- ・ 裏面に行きます。(3) 異校種間連携で、6年生の家庭科では月形高校の先生と生徒がミニ先生となって裁縫のお手伝いをさせていただきました。3年生のダンスでは月形中学校の先生と特別支援学級の生徒が、ダンス指導をしてくれました。また、月形高校の何人かの生徒には夏休み・冬休み学習会にご協力をいただいています。後期については幅広く、色んなことをさせていきたく考えています。
- ・ (4) その他です。町のご配慮をいただきまして、先日劇団ポプラの芸術鑑賞があり、また、河合竜二氏の講演があったところです。今後、厚生労働省の管轄になるんですが「ものづくりマイスター派遣事業」では、印章を作るプロの専門家が来て、子どもたちにレクチャーしてくれる場面を設けました。その道の専門家などに来てもらいながら教育活動を進めていきたいと考えているところです。
- ・ パワーポイントの方に戻らせていただきます。

2. 各種調査、アンケート結果等ですが、具体については後ほど資料を用意させていただきますので、そちらをお目通しいただければと思っております。
- ・ まず、全国学力・学習状況調査です。全国調査ですので比較対象ではこれが一番なのかなと考えています。もちろん、そのとき、その場面での結果ではございますが、令和6年度につきましては、全国平均よりは若干下回っているところがございます。全国を100として基準値をみていますので、昨年度がものすごく良かった、はんぱじゃないくらい良かったと理解していただきたいんですが、令和6年度については下回ったという状況です。
- ・ 今回はダメだったけれど来年はどうか、そういったことを考えたときの指標の一つに標準学力テストというものがあります。現在の2年生から6年生までの結果を出してみました。青が100を超えている。赤が100を下回っているとみていただきたい。青で記されているところが多いと思っています。現在の6年生は、若干赤があると思います。昨年度についてはとても良い成績なんです。その年々によって違うんですけども、現在の6年生についても、やはり根底にある力は十分についていると考えることができますので、うまく培いながら中学校進学に向けていきたいと考えています。

- ・ もう一つ、いじめ・不登校についてはどうなのかという点です。本校不登校はゼロです。私が勤務した前任地では不登校は1校あたり何人もいます。いじめの案件についても多々あります。いじめについても認知したもので20件くらいあるんですが、ただこれについては道教委の指導の下、本人が嫌な思いをしたということには積極的に認知しようという流れで動いていますので、他の市町の学校と比較する訳ではありませんが、比べるとかなり少ないと理解していただけたと思います。
- ・ 家庭学習強調週間については、お手元の資料を用意させていただいておりますので、後ほどお目通し願います。
- ・ 3. 今後に向けてについてです。やはり学力をしっかりと定着させる。そのために教員サイドの授業改善、指導力向上が大切であろう。併せて地域資源の積極的活用だとか、本物に触れる、専門家に学ぶ教育活動を展開していきたい。そしてまた異校種間連携を充実させていく、当然のように義務教育学校開校に向けた準備ということで後半戦を進めていきたいと考えています。
- ・ 特に本物に触れるとか、専門家に学ぶとか、人に触れる教育活動を大きく展開させていきたいと考えています。そうすることによって子どもたちの夢の実現に繋がると考えているところです。
- ・ 子どもたちは日々学習に取り組んでいます。その真剣な姿を見ていただければわかるかと思っています。低学年からiPadを駆使しながら、ICT機器に触れながら教育活動を進めているところでございます。
- ・ 以上、月形小学校の発表を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

【高島会長】

- ・ ありがとうございます。令和6年度月形小学校の中間評価について、説明をいただきました。皆さんからご質問等がございましたらご発言願います。

(質問なしの声あり)

(2) 令和6年度月形中学校の中間評価について

- ・ ご発言がないようですので、続いて、(2) 令和6年度月形中学校の中間評価につい

て橋本委員説明願います。

【橋本委員】

- ・ よろしく申し上げます。月形中学校の橋本と申します。資料を用意させていただいてありますが、画面を見ていただき、細かい数値等は資料の方で確認していただければと思います。
- ・ 大分前になりますが修学旅行です。運動会もちょっと雨が心配という天候でしたが、みんな元気よく頑張っていました。学校祭です。先日行いました。子どもたちはダンスと演劇に分かれてみんなしっかり取り組むことができました。執行部の企画です。上手に取り組むことができました。これが最後の出し物です。これは、2年生が月形高校と一緒に家庭科の調理実習をしたものです。
- ・ 今日は前期の学校評価ということで、主に子どものアンケートと教職員のアンケート、保護者アンケートの捉え方を皆さんと協議をしたいと思っています。
- ・ まず、教職員アンケートです。4段階評価となっています。そのとおりだというのは4です。そうじゃないというのが1となります。3はまあまあそうだ。3以上がOKということです。それを見ると1項目が3を下回っているところがあるので、ここに注目したいと思います。
- ・ (1) 確かな学力の向上、(7) 教職員の資質能力の向上、(8) 働き方改革の推進、やっぱり今求められているのは確かな学力ということで、基本的にはICTを活用していかなければならない。それに向けて授業改善をします。
- ・ 後は、教師には家庭学習の位置づけをしていかななくてはいけないと反省があります。それと付随して自律的な学習習慣を子どもたちに身につけさせなければいけないという反省を共有化しました。
- ・ 教職員の資質向上、ICTの活用です。全ての先生方がICTが得意かというところでもない。実際苦手な方も沢山いる訳です。だけれども、使っていかなければいけないという意識がある裏返しで、2.9という結果になったのか。研修も充実させなければなりません。今年度から研修プラットフォームというのができました。全道の公立の小中高にプラットフォームがあり、これを通して研修に参加したり、研修履歴が蓄積されたり、色々と新しい取組となっています。後、資質能力の向上が必要です。

- ・ 働き方改革です。生徒のために色々やると沢山時間がかかって在校時間も増えると職員も反省しています。行事の精選もしていかなくてはいけないですし、働き方改革の総合推進パッケージを使って業務内容の検証もしていかなくてはならないと先生方は非常に反省し、当事者意識を持って考えてくれています。
- ・ 生徒アンケートです。青が「そうだ」、オレンジが「まあそうだ」で、比較的生徒は青とオレンジのイエス回答をしています。その他の色が否定回答となっています。
- ・ 例えば「先生方は生徒一人一人がわかるように工夫して授業をしていますか」では、青19人、オレンジ21人ですので、合計45回答のうち40回答がまあ肯定的な回答です。
- ・ 次の「先生方は生徒一人一人のよい点や可能性を生かしながらいろいろな考えを取り入れられるような授業を進めていますか」も高評価です。ただ学年が上がるにつれて否定回答も少し増えてきます。
- ・ 「先生方はICT（Chrome book 等）を効果的に活用した授業をしていますか」では、ほぼ全員が活用してますと回答しています。ICTを活用した授業は効果的だと回答した子どもは比較的学力が高い傾向が出ています。
- ・ 「学校行事（体育大会・学校祭など）は充実していますか」では、42人が肯定的な回答ですが、学年が上がるにつれてちょっと改善してもらいたいというところが見て取れます。
- ・ 「積極的に授業に参加していますか」では、積極的にこんなに授業に参加しているという結果は他の中学校ではあまりないです。もうちょっと否定的な回答が多いと捉えているようです。
- ・ 「学習内容がわかりやすいですか」では、やはり、学習が進むにつれて否定的な回答が増えて、難しくなっていくのが実情なのかなと思っています。
- ・ ここから先ほどの回答とリンクするんですけど、「普段の家庭学習において、かたよりが出ないように計画的に勉強をしていますか」では、計画的に勉強しなさいというのは昔から言われていると思うんですけど、私も苦手でしたが、今の子も苦手な子が多いんだなと考えています。どうですか、先程までの回答と比べると否定的な回答が上回ってしまっている。裏返せば学校でちゃんと指導し切れていないと言える

思います。ここを改善していきたいと今思っているところです。

- ・ 「学校に通うのが楽しい」では、否定的な回答が13あります。これは逆に多いと思います。先ほどの問いでは肯定的な回答が多いけれども、通うのが楽しいかとなると急に13人と回答が増えている。ここが一番課題だと思いますので、これは先生方と情報共有し対処しなくてはいけないなと考えています。
- ・ 先ほどの家庭学習の問いで、家庭学習が1時間未満という回答が18人と多く、家庭学習の量が足りないということがこの結果からわかります。
- ・ 少人数学校の特質を活かし、生徒アンケートを全生徒で見たものです。一番左が空白になっているのがわかりますか、ここに名前が入っているんです。個々に対応した指導ができる。岩見沢の学校でやると1枚でまとまりませんから、45人だからこの表ができる。
- ・ この表は何かというとさっきのアンケートを色分けしています。そして数値を抜かしています。青が良く当てはまる「イエス」ですね。赤が全く当てはまらない「ノー」です。この分布、例えばゲームを3時間以上している子は、家庭学習は1時間未満と回答している。1時間未満と回答していますが、多分0分が多いと思います。色分けを見てみると、この色の分布でうちの学校の様子が一目でわかるということです。青の部分と緑の部分が肯定的回答で、赤と黄色が否定的回答になります。本当は左側に名前が入っているので、先生方は誰が何を答えたか見て取れるんですけど、名前は伏せてあります。並び順番も出席順番ではありません。これをもって1年生の誰々ということはありません。
- ・ これを見るとどうでしょうか。黄色や赤が多いところというのはやはり見て取れると思います。例えばうちの学校としてはこの部分が課題だと可視化できると思います。つまり、授業の予習や復習、家庭学習に課題を持っているという子が沢山いるというのが見えます。さっきの教職員のアンケートとリンクするんだと思います。赤いところが課題だと言われます。横を見て下さい。赤い数字が書いています。これは否定的回答を多くした子を書いています。この子の日常生活を見てみるとあまり気にしていないけれど、横で見えていくと否定的回答が多い。これは結構大事な子どもからのサインです。否定的回答が多いのはやはり学校に不満があったり、自分に自信がな

かったり、課題を持っている。横の軸を見ていくと個々の課題が見える。これを先生方と共有しています。

- 例えば先生方からの意見としては、家庭学習の意識をしなくてはならない。研修テーマに沿った家庭学習をみんなでやっという。学習時間と学年の学力テストの点数、クラス分析と言いますが、これもしていかななくてはならない。
- 本音で相談できるように信頼できる大人でありたい。これは、先生方に対して相談できますかという設問ですが、相談したいという子どもが多いんです。やっぱり本音で相談できるような信頼される大人じゃないとダメだと先生方と話しています。
- 学校が楽しくないという生徒への指導方針だとか、原因だとか、具体的にその生徒にぶつける言葉掛けをしなくてはならない。不安定な生徒へのサポートを意識的にしなくてはならない。授業では自己決定の場を設けなければいけないという確認をしました。
- 保護者アンケートは、3.4とか、3.3とか、比較的肯定的な回答もありました。ただ3より低い否定的なものを見てみると「子どもは家庭学習の習慣が身についているか」、「家庭学習をするように働きかけをしているか」、この辺が3より低い、やはり子どもの課題は、保護者の課題ということになっています。当然それは学校の課題です。
- 「子どもは学習内容を先生に気軽に相談できていると思うか」ですが、保護者の方はいやそうでもないんじゃないか。
- 「子どもは学校に通うのを楽しみにしているか」は、やはり3より低い。子どものアンケート結果とリンクしていると思っています。
- 「子どもは将来の夢や目標を持っているか」、これはちょっと低いですね。子どもが今迷っている。親もまた迷っているということです。
- これが保護者アンケート、教職員アンケート、生徒アンケートからみた学校のこれからの方針です。
- いじめアンケート、先ほど説明したような「嫌な思いをしている」生徒が1名いました。
- 「冷やかす、からかい、悪口を言われる」というふうに担任に訴えた。生徒と話を

して現在は解消しています。

- ・ 「友人が嫌な思いをしているのを見たり、聞いたりしたことがある」が4名いました。これも聞き取りをして今のところは継続はしていないという結果です。
- ・ 全国学力・学習状況調査です。お配りした資料にも入っています。国語、数学共に全国を上回っています。数値が見せられなくて大変申し訳ないですがこういう結果です。昨年度よりは上回ってはいませんが、多分昨年度の卒業生はずば抜けていました。空知でもずば抜けていました。私は空知の別な学校にいたのですが、何十ポイントも置いて行かれました。そういう学年でした。そこと比較すると下回っていますけれども、全国平均を上回っています。
- ・ 生徒質問紙調査から、3年生ですが、どういう結果が出たかという、「自分にはよいところがある」これは低いです。「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できる」低いですね。「学校に行くのは楽しいか」これも低いですね。「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫できる」これも低いです。
- ・ 「学校が楽しい」「自己肯定感が高まる」場所じゃなきゃいけないなということこれから後期に向けて先生方とつくっていきたいと思います。そのためには、「確かな学力で自己実現をさせる」ということと、「可能性を引き出す教育」を大事にしていきたいと思います。
- ・ ちょうど今 step 1 から step 2 に行く途中ですので、今後、年度末反省会議に向けて教職員で後期の作戦を練っていきたいと思っています。
- ・ これはオックスフォード大学が出した「2030年に必要とされるスキルトップ10」になります。今の学習指導要領というのは、どこの年代をターゲットとしているかという2030年の社会を見据えて作られています。オックスフォード大学ではそのときに何が一番大事かという戦略的学習力、つまり自分で課題を見つけて、自分なりに解決方法を見つけて解決していくということが一番大事だということです。これが今の学習指導要領でも自己調整力、そういうものを身につけなくてははいけない。あと皆さん知っているものはありますか。心理学が2番、私たちが一生懸命勉強した数学かなり低いんです81位です。英語においては21位で頑張っていますが、

つまり知識じゃないんですね。自分でどういうふうやっていくかという資質能力が大事だと言われています。

- ・ 2040年問題です。まだ話が先になってしまいますが、一番の問題が人口減少、少子化と労働人口の急激な減少、ここを学校の教育でどのように対応していくのが、どこの世界でも叫ばれています。
- ・ 後、外国人労働者も急激に増えていきます。2070年にはサービス業の3人に1人は外国の方、つまり何を言っているかという多様な他者と連携していく力が必要だと言っています。
- ・ 多様な人と結びつく力だとか、新しい価値を生む力だとか、これからどんどん叫ばれていく。なんとなく月形にいとそういう社会とは違う感じがしますが、子どもたちをこういう世界に飛び立っていくことをイメージして、我々は学校教育をやっつけていかなくてはと思っています。
- ・ 最後、雑ぱくになってしまいましたが、以上で終わります。

【高島会長】

- ・ (2) 令和6年度月形中学校の中間評価について説明がありました。ご質問等がありましたらご発言願います。

よろしいですか、特段ございませんでしょうか。

(質問なしの声あり)

- ・ ご発言がないようですので、続いて(3)その他に入らせていただきます。

(3) その他

【高島会長】

- ・ (1)(2)の中間評価とも関係すると思いますが、次年度以降の学校運営又は教職員の任用などについてのご意見がありましたらご発言をお願いします。この中でも協力員の任用についてもご意見をいただいていたかと思いますがいかがでしょうか。先生方としては思うところがありますか。

【島委員】

- ・ 思うところというか、橋本校長と常々話しているのは、令和9年度の義務教育学校

開校の校内体制の作り方なんです。具体例で言うと中学校に家庭科の先生がいなかったとします。そうしたときに小学校の教員なんだけど中学校の家庭科の免許を持っている。そういう人材がいれば義務教育学校になったときにその先生が小学校だけではなくて、中学校の家庭科にも教えることができる。または中学校の理科の先生が中1・2・3年生を教えています。義務教育学校になったときに例えば小学校の5・6年生を教えることができるだろうか、いわゆる教科担任制です。今は小学校目線で話をしていますけれども、そういったことを橋本校長と話をしながら令和9年度を見据えているところです。

現在、令和7年度の人事について検討しているところですが、3年後を見据えながら進めていることをお知らせします。

【高畠会長】

- ・ ありがとうございます。

今、専科の先生ですとか、加配の先生とかの状況を皆さんご存じですか。

【島委員】

- ・ 月形小学校からの話をさせていただけると、いわゆる小学校の定数というのがあります。この学校には教員は何人というのがあります。それ以外のプラス α は、学校から教育委員会を通じて申請した際に人があてがわれます。現在、加配枠が1名であります。3年生から6年生までの算数専科として進めているところです。来年度もこの加配枠をなんとか維持できないかと教育委員会を通じて道教委に依頼をしているところです。ただ、なにぶん人事ですので、必ず配置されるという保障はなく、学校・教育委員会で声を大にして道教委に要請をしている。そういった段階でございます。

【高畠会長】

- ・ すみません。度々ありがとうございます。

私も小学校を子どもが離れてからは、状況が見えていなかったところもあったので、実際にいるといたないとは、違う世界というか、違いがあります。私も子どもが小学生だった頃に理科専科の先生がいらっやって、授業のクオリティが違うなと感じていたので、委員の皆さんに知っていただければと質問させていただきました。

梅木委員どうぞ。

【梅木委員】

- ・ 中富良野町に新しく小中一貫の義務教育学校ができるんです。私と知り合いで、その新しい学校を特色のあるものにしようと取り組んでいるところです。
- ・ その中で「加配」の話が出てきたのですが、義務教育学校には専門の加配がつくことを聞きました。あまり学校の先生たちに馴染みのない話だったので、詳しく聞いてみたところ。加配の話は義務教育学校の新設に伴うもので、それをきっかけに取り入れたらしいと話していました。
- ・ この新しい中富良野町の学校では、起業家精神を育む教育、いわゆる「アントレプレナー教育」という授業を取り入れて特色を出し、人を集めようとしています。北大と連携していて、私も少し関わって一緒に活動しているんです。こういった取組を進めて、せつかくできる新しい義務教育学校に加配を活かして、他の町にはない取組ができれば、地域の発展や教育の面でもとても良いと思っています。そんなことができたらいいなと考えています。

【高島会長】

- ・ ありがとうございます。
この点は今後の令和9年度に向けての中では、教育委員会も含めて考えることかと思えます。
はい、橋本委員どうぞ。

【橋本委員】

- ・ 実際に今、中学校では加配はなし。3学級の中学校では加配が付くということはほぼないです。それぐらい加配は今厳しい状況です。私は以前江部乙中学校にいたんですが、滝川江陵中学校と統合したんです。そのときは統廃合加配で1人付けていました。今の要項を見ると義務教育学校をつくる时候にも教育委員会とも協議していましたが、かなりきついですね。みんな苦勞して調整したのですが、やはりダメなんです。なぜかと言うと今の制度で言えば、義務の小学校二つと中学校が一つになる3校の義務教育じゃないとダメなんです。何回も問い合わせをしたんですが、残念です。色々な兼ね合いがあるんです。結局切られるんですね。

【島委員】

- ・ 本当に今、加配の付け方って色々な基準があって、私も人事情報を見ながら、これはダメかな、これはなんとかならないかな、これは小学校でなんとかならないかな、これは橋本校長の方から申請してほしいというように色々やって、可能性を教育委員会を通じて道教委に問合せをしてもらいますが、悲しいお知らせしかいつも来ないんです。本当に加配をなんとか付けたくて努力をしているところなんです、模索は今後もします。努力はしているということでご理解下さい。

私以上に教育委員会、教育長のほうが努力しています。

【梅木委員】

- ・ はい、分かりました。

【高畠会長】

- ・ あと特色ある教育についてはどうですか。

【橋本委員】

- ・ 今、義務教育学校開設に向けて先生方も小中合同で会議をしたり、視察をしています。月形町の特色は何かを視察を通して考えています。地域性だとか、学校のスタンスだとか色々な教育ができると準備をしています。もし、何か良いアイデアがありましたら、地域の教育資源と先ほど言いましたが、それを活かすとおもしろい授業が沢山できると思っています。良いアイデア、協力してくれる方がいたら連絡して下さい。

【高畠会長】

- ・ はい、上葛次長どうぞ

【上葛事務局長】

- ・ 教育委員会上葛です。色々沢山のご意見をいただきました。島委員からは学校の免許の関係、小中の専科のやりくりではこういうことができないかというところ、それから特色ある教育の関係、学校の先生の加配の関係がございました。
- ・ 基本的には、義務教育学校で小学校と中学校の義務教育学校なので、免許というのは、小学校、中学校の免許を持っている方が義務教育学校の先生になるというのが将来的な見通しです。過渡期であり両方の学校の免許を持っている方というのはまだ少ないですので、開校のときにそれが全部揃っていることは難しい状況だと思います。ただ、将来的には小と中両方の免許を持っている。相互に補完し合えるような関係に

なっていくということに体制上はなっていくと思います。

教育委員会としましては、教育長をはじめとしまして、教育局に人事を要望して、体制が作れるような努力をしていきたいと思っています。

- ・ 加配の関係につきましては、今のご発言のとおりかなり厳しい状況です。特に統合加配というのがございますが、うちの場合、小学校1校、中学校1校ですので、その場合は加配が基本的にはつかないという規定となっています。3校、4校ということであれば加配がつくかと思えますけれども、現状としては今のような状況で統合に関しては難しいとご理解いただければと思います。
- ・ 特色のある学校につきましては、今ほどのとおり先生方に色々検討いただいている状況であり、ご助言いただければと思っております。

以上でございます。

【高島会長】

- ・ ありがとうございます。皆さんの方から他にも何かご意見等いかがでしょうか。事務局から何かあるでしょうか。

【五十嵐事務局】

- ・ はい、年度末の関係をお知らせしたいと思います。昨年度ですと2月中に小中学校の1年間の学校評価、一番大切なところなのかと思いますが、皆さんから評価をいただいてそれを公表していくこととなります。

今ほど多くのご意見が出ましたけれども、本来であれば部会を開いて踏み込んだご意見をいただくところですが、義務教育学校の開校という大きなことがございますので、次回の協議会での部会につきましては、早いスタートにして協議の時間を設け、ご意見をいただきたいと思っています。なるべく多くの委員の方が参加できる日程を調整し、ご案内いたします。

4 閉 会

【高島会長】

- ・ 皆さんから特段ご発言がないようなので、本日の案件は以上で終了いたしましたので、これをもちまして令和6年度第2回月形町学校運営協議会を終了いたします。

皆さんありがとうございました。